【令和５年度事業方針】

１　利用者の意向や希望を把握し、入居者や家族に喜ばれる介護サービスの提供を図り、多職種間で協働し、質の高いケアサービスの向上に努める。

・入居者の意向や希望を取り入れ、アセスメント・ケアプラン・モニタリングの充実を図りより良い支援を行う。
・各ユニット会議を通して、個々の介護情報を共有・理解し、根拠をもった統一したケアサービスが行えるようにする。
・入居者の ADL の変化に伴うケアカンファレンスを適宜行い、多職種間で共通理解が図れるようにする。
・感染症が長く続いている為、毎月１回、入居者の写真とメッセージを添え、家族へ送付し入居者の日常をお知らせする。随時メールや電話での問い合わせを受け付け、近況報告を行う。
・協力歯科医と連携し、歯科専門職の助言のもと口腔内の衛生管理を行い、経口摂取の促進とともに誤嚥、肺炎予防に努める。
・コロナ感染症や、各感染症防止対策に努め、入居者の健康を守る。

２　コスト意識を持ち、日常業務を行う。

・空床が出来ない様、入居調整を迅速に行い、空床ゼロを目指して新規入居者の受け入れを速やかに行う。
・在庫管理を行い無駄を無くす。
・施設物品は丁寧に扱う。
・電気料金の値上げに伴い、節電に心がける。

３　ユニットケアにおける「個別ケア」を実践し、効果的なユニットケアの展開が行えるようにし、ユニット毎に、利用者、職員に対しての年間の目標を設定し満足して頂けるケアの提供を行う。

・入居者の心身の状況と暮らしの意向等を把握、理解し、一人ひとりに応じた快適な生活リズムが整えられるよう支援する
・信夫の里ならではの「個別ケア」を可視化、具体化させていく。

【各ユニットの年間計画】

【つつじ・あじさい】

『利用者目標』

・利用者様の嗜好や注意しなくてはいけない事、利用者様のプラス面、マイナス面について、職員間で共有し、それらについて統一した対応を取る事で、利用者様の生活の充実や、身体・精神面での不安、リスクの軽減を図って行く。

『職員目標』

① 職員一人ひとりが利用者、業務について考える。

・利用者様対応での課題、業務内容の変更などがあった場合、ユニット職員へ問題点を周知し意見を募る事を徹底する。また、毎月のユニット会議の出席職員に偏りが出ないようにシフトを作成し、意見、提案がしやすい状況を作る。

② 職員の意見、提案については全員で共有し取り組む。

・実施可能、不可の判断を職員で行った後に、取り組み可能な事に関しては積極的に実施していく。それをする事で、職員の負担軽減や利用者様への余暇の充実を図って行く。

③ 目に見える形で職員の負担軽減を図って行く。

・①、②を長期的に行っていく事で、業務改善が行えた場合、半休や有休をシフトに組み込み、心身の休息に充てられるようにする。

【うめ・もみじ】

『利用者目標』

利用者に多く笑顔になって頂ける様、季節を感じられる様取り組む

・季節を感じられる行事、誕生会を定期的に実施していく。

・一部の職員に偏ることなく行事の計画から段取り、なるべく全職員に参加して頂ける様に担当割り振りを行う。

・行事を提案するにあたって、決まった職員だけでなく、ユニット会議や多職員の意見も取り入れる時間を設ける。

『職員目標』

① 本人のこだわりや生活スタイル・ご家族の要望を一括にまとめ、新人職員や中途職員誰でも統一した介助・対応が出来る様取り組む。

・24 時間シートの更新、24 時間シートに似た用紙の作成。

・ユニットで判断しづらい問題・課題が発生した場合には、早急にケアカンファレンスを行い問題解決を図って行く。

② 利用者の異常や特変に直ぐに気付ける様申し送りの徹底に努めて行く。
・パソコン記録、入力方法、口頭の申し送りやマニュアルの見直しを都度図って行く。

【ふじ・さざんか】

『利用者目標』

・利用者様一人ひとりの状態や希望に沿ったケアの提供、季節感を感じられるようなレクリエーションや行事を実施する。

『職員目標』

・職員間での「報・連・相」が取れる様、挨拶やお互いに声を掛け合う等のコミュニケーションを摂れるように努める。その上で、利用者様の情報の共有やケアの統一を図る。
・一人一人の意見をはっきりと言えるように積極性を持って取り組んでいく。会議や検討の場にも積極的な参加をして行く。

【ばら・しゃくなげ】

『利用者目標』　「季節ごとの行事・レクリエーションを行う」

・行事に参加する事で季節を感じて頂き、利用者様同士が交流する場を設ける事で楽しんで頂けるような刺激ある雰囲気づくりを心掛ける。
・利用者様の気持ちに寄り添いながら、安心した生活、危険のないよう安全な生活が送れるようケアに努める。

春：誕生会（4 月～6 月）　花見（季節の食事レクリエーション）
夏：誕生会（7 月～9 月）　かき氷（季節の食事レクリエーション）
秋：誕生会（10 月～12 月）芋煮会（季節の食事レクリエーション）
冬：誕生会（1 月～3 月）豆まき・ひな祭り（季節の食事レクリエーション）

『職員目標』

・職員本位や過剰な職員への気遣いではなく、あくまで利用者様のためのケア業務である事を忘れない。
・その日その時の状況をしっかりと把握し、訴えられる利用者様だけでなく、利用者様全体を見て適切な判断、行動が出来るようにする。
・根拠を持ったケアをする。理由がわからないままなんとなく業務している事が無いように、なぜそう決まっているのかの意味を職員それぞれが理解して

業務に取り組む。

・サービス向上のため、職員それぞれが主体性を持って仕事に取組み、会議や普段の業務でも積極的に意見を出し合う。他の意見に対しても耳を傾け受け入れる姿勢を持つ。

・チームの一員としての自覚を持つ。個人の思いや考えだけで動かず、チームとして一貫性を持ったケアをし、どの職員が対応しても同じサービスを提供して、利用者様が落ち着いた生活を送れるように努めて行く。

・利用者様の生活の場である事を意識し、身だしなみや衣類汚れ、居室の整理整頓に気を配る。

【さくら】

「利用者目標」

①ユニットに自分の居場所を見つけられ、居室を自宅と思えるような過ごしやすい環境整備を行う。

・定期的にユニット会議などで目標と期間を設定して、各利用者様の担当者が実施できるように努める。

②入居者様の意向に沿ったケアを行う。

・ユニット会議やケアカンファレンスなどで、個別ケアについて検討する場合法人理念に沿った内容になっているかを重視する。

「職員目標」

①職員間のコミュニケーションを密にし、入居者様の情報共有がしやすい環境作りを行う。

・ユニット会議だけでなくミニケアカンファレンス等の機会を設け、職員一人ひとりが意見を出せるように努める。

②業務内容や職員一人ひとりの役割分担を見直し、円滑に物事を進められるようにする。

・現在行っている業務を細分化して、各職員の能力に応じて割り振り、職員一人ひとりが責任を持って業務に取り組めるように努める。

4　信夫の里で働く職員がやりがいや希望、目標を持って仕事に取り組めるよう、より良い職場環境づくりに努める。

・外部機関によるアドバイスを生かして、公正な可視化された評価制度の策定。

・評価制度を用いて個々の職員の特性を考慮した多角的な指導や面談を行い、課題解決に努める。

・職員が相談しやすい雰囲気づくりと環境を整える。
・職員の個々のスキル・キャリアに合わせた研修への参加。
・介護職員の自己研鑽及びスキル向上を目的として、外部研修の年間計画案内を開示し、積極的な研修参加を図る。
・施設内研修計画に沿い、オンライン研修も取り入れ、三密防止を図りながら研修を実施する。

【施設内研修計画】

	研 修 内 容	担　　当
4月	職員研修報告会	教育委員会・相談部
5月	食中毒等の感染予防	管理栄養士
6月	ユニットケアについて	ユニットリーダー研修修了者
7月	身体拘束・高齢者虐待について	身体拘束廃止・安全対策委員会
8月	キャリアパスに関して	外部講師
9月	認知症について	認知症ケア実践者研修修了者 外部講師等
10月	感染症対策について	感染対策委員会・外部講師等
11月	キャリアパスに関して	外部講師等
12月	ターミナル（看取り）ケアについて	医務室・外部講師等
1月	事例検討会	各ユニット・各事業所
2月	リスクマネジメント 事故・ヒヤリハットからの視点	身体拘束廃止・安全対策委員会
3月	新入職員オリエンテーション	教育委員会・相談部

【月間計画】※感染症状況によって変更あり。

・各種委員会の開催（毎月定時開催の実施、報告書類作成・整理）

・第2水曜日　理美容（スタイルハート）・第3月曜日　理美容（シニアリンク）

・第2木曜日　華道クラブ

・第3火曜日　折紙クラブ・第3木曜日　唱歌クラブ

・第3月曜日　書道クラブ

【年間行事計画】

施設行事及び各ユニット行事

〇4 月　お花見会
〇5 月　しょうぶ湯
〇6 月　ドライブ
〇7 月　七夕
〇8 月　納涼祭
〇9 月　信夫の里祭り・敬老会
〇10 月　芋煮会
〇11 月　ゆず湯
〇12 月　クリスマス会
〇 1 月　新年会
〇 2 月　節分
〇 3 月　ひな祭り